

中南米系外国人集住地域の言語表示における伝達意図の阻害要因

齋藤 敬太・志喜屋 カロリーナ

1. はじめに

外国人集住地域には今日多くの多言語表示があり、外国人住民の母語による表示がみられる。しかし、送り手の伝えようとする内容が必ずしも受け手にうまく伝わるとは限らない。つまり、「伝達意図の阻害」という問題があるのだ。外国人集住地域の言語景観に関する先行研究としては、寺尾(2009)、山下(2010)、ロング・今村(2012)などが挙げられるが、このような問題について言語学的な観点からはほとんど取り上げられてこなかった。

本稿では、外国人集住地域で多言語表示や外国語のみの表示を撮影した合計 504 枚の写真に対し質的分析を行い、その中から 7 つの表示を取り上げ、不特定多数の人々に向けられた言語表示における伝達意図の阻害要因について考察した。

2. 調査地概要

本研究の調査地は中南米系外国人が集住しており、かつ、ブラジル国籍とペルー国籍の住民登録者数が共に上位 3 位以内に入っている群馬県伊勢崎市、群馬県大泉町、神奈川県愛川町、静岡県湖西市の 4 都市である。2013 年 8 月に湖西市と伊勢崎市、2013 年 11 月に大泉町、2014 年 7 月及び 10 月は愛川町において、各中心街での言語景観調査を実施した。

各調査地の人口および国籍の概要は以下の通り（表 1）。

表1. 外国人集住地域 4 都市の基礎データ¹

都市名	総人口	外国人人口 (割合(%))	外国籍 1 位	同 2 位	同 3 位
			登録者数	登録者数	登録者数
伊勢崎市	210,916	9,671(4.6)	ブラジル	ペルー	フィリピン
			3,079	2,326	1,139
大泉町	40,732	6,147(15.1)	ブラジル	ペルー	中国
			3,938	914	204
愛川町	41,592	2,072(5.0)	ペルー	ブラジル	フィリピン
			680	459	257
湖西市	61,248	2,681(4.4)	ブラジル	ペルー	中国
			1,382	436	221

¹ 愛川町は 2014 年 7 月 1 日現在、他地域は 2014 年 4 月 1 日現在のデータである。

3. 誤表記

図1は避難所の表示で、日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語の4言語表示である。



図1. 誤表記の多言語表示 (伊勢崎市)

ポルトガル語表示においてミスが目立つ。ポルトガル語表示に見られる“temporalmelpe”は、「一時的に」を意味する副詞“temporalmente”の筆記体の読み取りミスと考えられる。筆記体の“n”と“p”、そして“r”と“l”を見間違えたという状況が想像出来るが、その場合は“p”と“l”を入れ替えてしまったという二重のミスということになる。なお、2名のポルトガル語母語話者に確認したところ、図のような表示においては“temporalmente”は一般的に用いられず、「一時的な」を意味する形容詞“provisorio”のほうが自然であるということである。このような誤表記は、今回に関しては伝達しようとする意図を阻害するには至らないものであったが、程度によっては全く意味を解せないほどの阻害要因にもなり得る。

4. 文法の誤り

図2の表示は、公園の入り口横に設置されている。町内小学校PTAによって作成され、スペイン語を母語とする児童に向けられたものであるが、誤用がみられる。

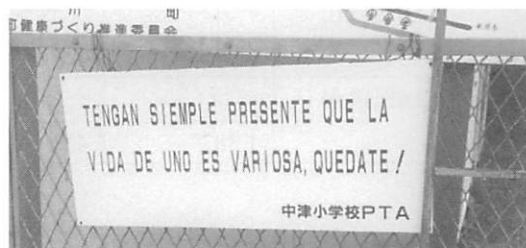


図2. 文法の誤りが見られる表示 (愛川町)

表2. 図2の表示内容

TENGAN SIEMPLE PRESENTE QUE LA
VIDA DE UNO ES VARIOSA QUEDATE!

図2の“QUEDATE!”の直前部分までの意味は「一人の命（人生）は価値あるものだとことをいつも忘れないでてください。」²となる。問題点は最後の“QUEDATE!”にある。これは動詞 *Quedar* の二人称・単数・現在の命令形 *Queda*＋二人称・単数の再帰代名詞 *te* で、その後ろに場所を付け加えれば「（場所）に居てください。」という意味になる。しかし、場所を示す部分が欠けているため、①公園にいて他の子供達と遊んでほしいのか、②何か悩みを抱えている人に対して、私たちと一緒にいましょう、と言っているのか、あるいは③孤立した外国人の子供の自殺を思いとどまらせる為に、この社会に馴染んでほしいという意味の語用論的解釈を要するものなのかが不明確である。スペイン語を母語とする子供達へのメッセージであると推測出来るが、残念ながら表示の送り手の意図が伝わらないものとなってしまっている。この問題が起こる原因は、当該動詞の文法制約にあり、その場にいる人物が“QUEDATE!”と発言すれば、「ここに居てください。」という意味になるが、文脈共有の困難な看板等の掲示物でこの表現を使用するには、やはり場所を指し示す目的語や副詞が必要であり、“QUEDATE!”のみでは意味が不明瞭になってしまうのだ。ロング(2014)では日本語による「発話要素の関連性が不明瞭な例」³である言語景観を示しているが、この表示もスペイン語のそれに値すると考えられる。なお、表示の送り手側への聞き取り調査を試みたが、小学校職員は5年ごとに転勤するという制度上、当時を知る者が既になかったため、翻訳者を特定することが出来なかった。

5. 他言語からの類推

図3は、ペットボトルの収集箱で、日本語・ポルトガル語・英語・スペイン語の4言語表示がされている。



図3. スペイン語で通常用いられない“Botellas PET”の表示（湖西市）

² 綴りの誤りが確認されるが、ここでは取り上げない。

³ ロング(2014)p.20

問題になるのがスペイン語表示“Botellas PET”である。「ペットボトル」を意味するスペイン語としては通常“Botellas de plástico”が用いられ、“Botellas PET”は用いられない。日本国内に在住するスペイン語母語話者3名に聞き取り調査を実施したところ、普通“Botellas de plástico”と言うので“Botellas PET”と言われても分からない人がいるかもしれない、といった回答を得た。おそらく日本語の形式「ペットボトル (PET ボトル)」がポルトガル語では“Garrafas PET”であることからの類推が関わっていると思われる。ポルトガル語においては、「ペットボトル」のことを“Garrafas PET”と言って通用することをポルトガル語母語話者2名への聞き取り調査で確認した。ポルトガル語で「瓶」にあたる“garrafas”に“PET”を合わせたものが「ペットボトル」を指すのであれば、言語的に近縁関係にあるスペイン語でも同様に「瓶」にあたる“botellas”に“PET”を合わせれば「ペットボトル」を指すであろう、このような類推によって“Botellas PET”という語が作り出されたと考えられる。

日本では、「PET ボトル」という表記が定着しているため、日本にある程度居住しているスペイン語母語話者であれば、“botellas PET”の指す意味を理解出来るようになるであろうが、来日して間もないスペイン語母語話者には伝わらない可能性が高い。

6. 意味論的問題

図4は団地内に設置された外国人住民に向けられた住まいのルールに関する多言語表示である。

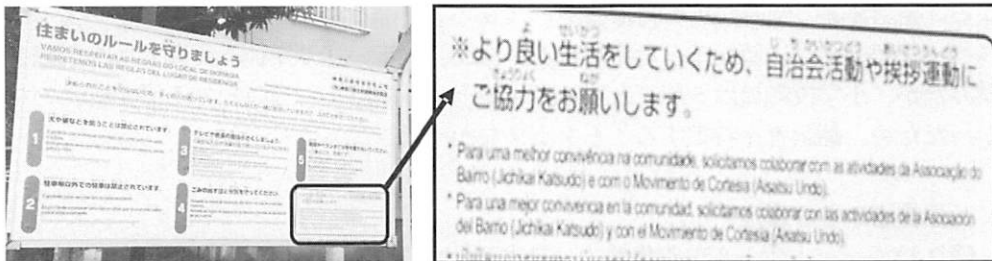


図4. 意味論的問題の見られる表示 (1) (愛川町)

表3. 図4の表示内容

<p>※より良い生活をしていくため、自治会活動や<u>挨拶運動</u>にご協力をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Para uma melhor convivência na comunidade, solicitamos colaborar com as atividades da Associação do Bairro (Jichikai Katsudo) e com o <u>Movimento de Cortesia</u> (Aisatsu Undo). • Para una mejor convivencia en la comunidad, solicitamos colaborar con las actividades de la Asociación del Barrio (Jichikai Katsudo) y con el <u>Movimiento de Cortesía</u> (Aisatsu Undo).

図4の表示の問題点は「挨拶運動」という表現である。ポルトガル語母語話者に確認したところ、“Movimento de Cortesia”ではブラジル人に通じない、“movimento”は抗

議などに使うが日常では使わない、“cortesia”は使ったことがない、“cumprimentar a todos”（みんなに挨拶する）のほうが伝わりやすい、といった回答を得た。スペイン語母語話者にも確認したところ、「挨拶の動き」と解釈されてしまうこともあり、「お辞儀」そのものを指す場合があるという。また、文章全体を読んでも住民が何をすれば良いのか不明確だ、というポルトガル語話者と同様の回答が得られた。つまり、今回取り上げている日本語の「運動」の意味とは、ポルトガル語の“movimento”やスペイン語の“movimiento”の示す意味が異なっているということである。

そこでポルトガル語“movimento”・スペイン語“movimiento”と日本語「運動」の意味の辞書⁴による比較を行ったところ、語義が重なる部分もみられたが、ポルトガル語・スペイン語の意味範疇のほうが日本語の「運動」のそれよりも広い一方、明らかにずれている部分もあることが分かった。

本章で問題として取り上げている「挨拶運動」に用いられる「運動」の意味は、国語辞典において「人々に働きかけて行動すること。」に該当する。ここには、「反戦運動」「民族運動」などの社会的に大規模なもののほか、「募金運動」のような比較的小規模なものも含まれ、「挨拶運動」は後者に該当すると考えられる。しかし、ポルトガル語“movimento”・スペイン語“movimiento”においては、そういった用法では前者のような大規模な場合にのみ用いられる。そのため、「挨拶運動」の訳語に“movimento”や“movimiento”を用いることは適当ではない。以上の内容を図に表すと以下のようになる（図5）。なお、本章で扱うポルトガル語“movimento”とスペイン語“movimiento”に関しては、示す意味がほぼ同一のため、図では同枠に収めた。

- 日本語「運動」の意味
- ポルトガル語“movimento”及び
スペイン語“movimiento”の意味

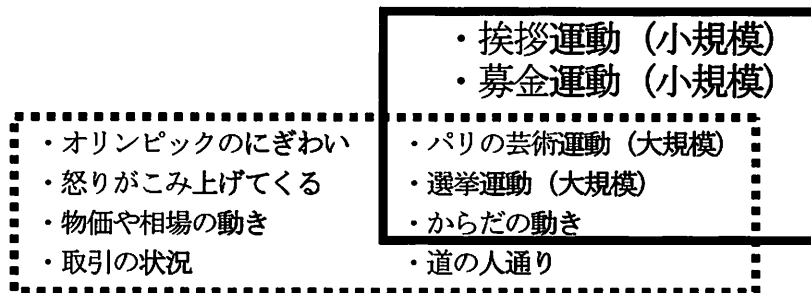


図5. 「運動」と“movimento”・“movimiento”の意味範疇のずれ

⁴ 国語辞典は小野他編(2015)、ポルトガル語辞典は池上他編(2014)、スペイン語辞典は上田・ルビオ編(2006)を使用。

また、住宅街の一角で、図6のようなゴミ出し禁止の表示が確認された。下の部分が見にくいので表示内容を表4に示す。



図6. 意味論的問題の見られる表示（2）（湖西市）

表4. 図6の表示内容

PROIBIDO JOGAR <u>LIXO</u> PROHIBIDO BOTAR <u>BASURA</u> ※ <u>ごみ</u> を出すな (somente <u>material reciclável</u>) (solamente <u>material reciclable</u>) ※ここは、 <u>資源物</u> だけ
--

赤字で大きくポルトガル語で“PROIBIDO JOGAR LIXO”、スペイン語で“PROHIBIDO BOTAR BASURA”、つまり「ゴミ捨て禁止」、また下段にはポルトガル語で“somente material reciclável”、スペイン語で“solamente material reciclable”、つまり「資源物のみ」と書かれ、それぞれの下にかなり小さく日本語で「※ごみを出すな」「※ここは、資源物だけ」と書かれている。

ポルトガル語母語話者にこの表示について確認したところ、上段の“LIXO”（ごみ）、下段の“material reciclável”（資源物）が「どちらもブラジル人にはゴミで、「少しわかりづらい」と表示の理解の難しさを指摘している。つまり、この表示ではポルトガル語の“lixo”と“material reciclável”、日本語の「ごみ」と「資源物」において意味論的問題が生じていることになる。ポルトガル語では、“lixo”の意味が“material reciclável”を内包しているといえるが、日本語では、湖西市のホームページでも「湖西市のごみ・

資源物等の状況」と題するページが存在するように⁵、「ごみ」と「資源物」は別のものを指し、「資源物」は「ごみ」に内包されない。スペイン語母語話者についても、ポルトガル語の場合と同様に“material reciclable”は“basura”に含まれるとの回答を得た。このような意味範疇のずれがポルトガル語・スペイン語話者にとって「少しわかりづらい」表示にしているのである。以上の内容を図にすると図7のようになる。

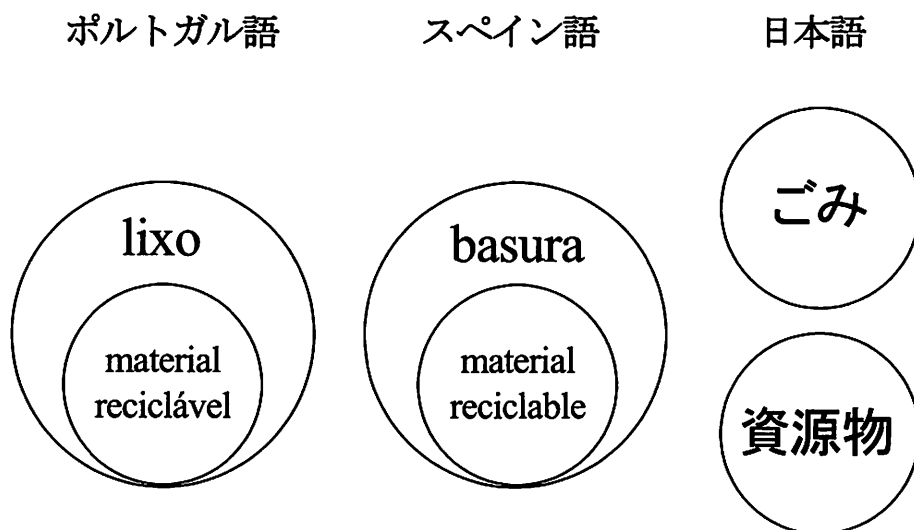


図7. ポルトガル語・スペイン語・日本語の意味範疇のずれ

7. 語用論的問題

図8は、海拔を示す表示で、日本語・ポルトガル語・英語の3言語で書かれている。日本語の「地震だ！津波だ！すぐ避難！！」という標語に対し、ポルトガル語で“É um terremoto! É um tsunami! Refugiem-se imediatamente!”と訳されている。このser動詞を用いた“é ~”という表現であるが、日本語に直訳すればたしかに「～だ」という意味になる。しかし、これでは、日本語の「地震だ！」のニュアンスとは異なってくる。ポルトガル語母語話者に確認したところ、これらの表現を見て意味は分からなくはないが、本当に地震や津波が来た際は“É um terremoto!”や“É um tsunami!”とは言わず、単に“Terremoto!”や“Tsunami!”と言うとのことである。つまり、日本語をポルトガル語に直訳したことにより、自然ではない表現を用いているのだ。

⁵ 湖西市ホームページ(<http://www.city.kosai.shizuoka.jp/7692.htm>)



図8. 語用論的問題の見られる表示 (湖西市)

8. デカセギ語・方言差の問題

集住地域には、様々な文化的背景を持った人々が居住している。図9の表示に関して、翻訳者に聞き取り調査を実施したところ、外国人住民が短期滞在志向か永住志向かによる語彙選択、スペイン語圏内の方言差を考慮した翻訳を行ったという証言が得られた。図9は町の広場の利用心得の多言語表示である。

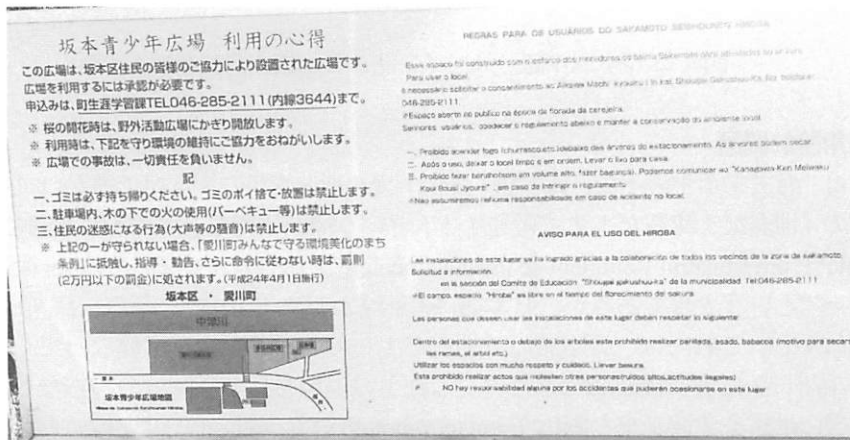


図9. デカセギ語と方言差を考慮した表示 (愛川町)

スペイン語翻訳部分を表5に示す。

表5. 図9のスペイン語翻訳部分

<p style="text-align: center;">AVISO PARA EL USO DE(a)<u>HIROBA</u></p> <p>Las Instalaciones de este lugar se ha logrado gracias a la colaboración de todos los vecinos de la zona de sakamoto. Solicitud e información.</p> <p>En la sección del Comite de Educación “Shougai gakushuka” de la municipalidad.</p> <p>Tel: 046-285-2111</p> <p>El campo, espacio “(a)<u>Hiroba</u>” es libre en el tiempo del florecimiento del (b)<u>sakura</u>.</p> <p>Las personas que deseen usar las instalaciones de este lugar deben respetar lo siguiente.</p> <p>Dentro del estacionamiento o debajo de los arboles esta prohibido realizar (c)<u>parillada, asado, babacoa</u> (motivo para secarse las ramas, el arbol etc.)</p>

翻訳者は、日系人を配偶者に持つ元ペルー国籍の帰化者で、家庭内言語はスペイン語を使用し、日本語は職場で用いる程度である。翻訳者いわく、中南米系移住者が来日を始めた1990年代から20年以上経過した現在、マイホームなどを購入し永住志向が広まっていることを念頭に翻訳を行ったという。そのため“(a)Hiroba”（広場）や“(b)Sakura”（桜）は彼らの生活に根付いている言葉だと解釈し、スペイン語に翻訳せずそのまま採用した、とのことである。これらの語彙は、借用語の一種であるデカセギ語⁶に値すると考えられるが、この町に住むスペイン語母語話者が共通して使用しているものかどうか、また多くの人が使用している場合でもコミュニティ内での使用頻度が高いのかどうか等、デカセギ語として定義づけるには、さらなる調査と議論が必要である。

デカセギ語に関しては、斎藤・志喜屋(2014)の発表の際、とある自治体の職員より、多言語表示にデカセギ語を使用すべきだというご意見をいただいた。今回、使用例が確認されたことで、その需要が裏付けられた。今後、デカセギ語を収集し、まとめてその理解度や通用度について調査していくことが急務である。

また、バーベキューの訳語として、“(c)parillada, asado, babacoa”三語を取り入れた理由に関しては、ペルーやアルゼンチン、ドミニカ等スペイン語圏内の方言差を考慮した、という回答を得た。確かに、この表示のある愛川町では、外国人集住地域の中でも特に多くの外国人が居住する愛知県豊田市とほぼ同数のスペイン語母語話者が定住しており、国籍別にするとその数は10ヶ国に上る。スペイン語とはいえ、その方言差は日常語にも及び、理解を妨げる場合もあり得るのである。

⁶ 重松(2012)など

9. まとめ

以上、本稿では中南米系外国人の多く居住する外国人集住地域における言語景観の伝達意図の阻害要因について言語学的分析を行った。その結果、1.誤表記、2.文法の誤り、3.他言語からの類推、4.意味論的問題、5.語用論的問題、6.デカセギ語の問題、7.方言差の問題、7つの阻害要因と考えられるものが明らかになった。

野山他(2009)で報告されている通り、「日本人住民と外国人住民の共生社会を実現していくために、言語サービス⁷は一つの有力な手段」⁸であり、多言語表示設置の意義はここにある。しかしながら、今回取り上げた阻害要因を含む表示では送り手の意図した情報は等しく伝わらず、受け手がどの言語話者によるかで情報に偏りが生じかねない。また、誤った翻訳や理解しにくい表現のために、送り手が外国語話者を軽視しているとも解釈されかねない。

今後、研究を発展させることにより、更なる阻害要因の提示が可能であると考えられ、それにより、送り手は情報を正しく伝え、共生社会における住民同士の良好な関係性を築くことが可能になるであろう。つまり、多言語表示本来の目的が達成されるのである。

謝辞

本研究は、井上史雄代表の文部科学省科学研究費『公共用語の地域差に関する社会言語学的総合研究』（基盤 C）の助成を受けたものである。また、本研究に協力して下さった遠藤由美子（Claudia Endo）氏、平松忠治（Ricardo Hiramatsu）氏、Michie Iwane 氏、Leandro Nakasone 氏、Lincoln Okumoto 氏、Neil Perdomo 氏、Yuko Shikiya 氏にお礼申し上げます。

参考文献

- 池上岑夫、金七紀男、高橋都彦、富野幹雄、武田千香編(2014)『現代ポルトガル語辞典（3訂版）和ポ付』白水社
- 上田博人、カルロス・ルビオ編(2006)『プエルタ新スペイン語辞典』研究社
- 小野正弘、市川孝、見坊豪紀、飯間浩明、中里理子、鳴海伸一、関口祐未編(2015)『三省堂現代国語辞典 第五版』三省堂
- 野山広、木村護郎クリストフ、河原俊昭、田中牧郎、嶋津拓(2009)「多言語・多文化社会の言語政策について考える—Linguistics as a social welfare の観点から—」『社会言語科学』12-1 社会言語科学会
- 湖西市(2012)「湖西市のごみ・資源物等の状況」<http://www.city.kosai.shizuoka.jp/7692.htm>
- 斎藤敬太、志喜屋カロリーナ(2014)「外国人集住地域の言語景観からみる多文化共生

⁷ 本稿で扱った表示はほとんど自治体によるもので、公共性が強いものといえる。このような表示は、自治体の言語サービスの一つとして位置づける見方もある。

⁸ 野山他(2009)p.176

- のあり方」多文化社会実践研究・全国フォーラム（第8回） 口頭発表（東京外国語大学、2014年12月）
- 重松由美(2012)「在日ブラジル人高校生・大学生の言語生活とアイデンティティ」『椋山女学園大学教育学部紀要』5 椋山女学園大学教育学部
- 寺尾智史(2009)「地方都市における多言語表示—美濃加茂市における南米出身者向け表示を事例として—」『神戸大学留学生センター紀要』15 神戸大学留学生センター
- 山下暁美(2010)「外国人集住都市の言語景観—言語表示サービスの現状—」『明海大学外国語学部論集』22 明海大学外国語学部
- ロング, ダニエル(2014)「非母語話者からみた日本語の看板の語用論的問題—日本語教育における「言語景観」の応用—」『人文学報』488 首都大学東京人文科学研究科
- ロング, ダニエル、今村圭介(2012)「伊賀上野の多言語・多方言の言語景観」『日本語研究』32 首都大学東京・東京都立大学 日本語・日本語教育研究会

(さいとう けいた・首都大学東京大学院博士後期課程)
(Carolina Shikiya・首都大学東京大学院博士前期課程)